第二十六講　漢文の読解②

Step 1

一　次の【漢詩】を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

【漢詩】

秋思（しゅうし）　張籍（ちょうせき）

洛陽城裏（らくようじょうり）秋風（しゅうふう）を見る
家書を作らんと欲（ほっ）して意（おも）ひ万重（ばんちょう）
復（ま）た恐（おそ）る忽忽（そうそう）として説きて尽くさざるを
行人（こうじん）発するに臨みて又封を開く

洛（注1）陽城裏見ル二秋風ヲ一
欲シテレ作ラント二家書ヲ一意ヒ万重
復タ恐ル忽（注2）忽トシテ説（注3）キテ不ルヲレ尽クサ
行人臨ミテ発スルニ又開ク封ヲ

（注1）洛陽城裏……洛陽の町中。洛陽は河南（かなん）省の都。筆者は故郷を離れて洛陽にいる。

（注2）怱怱……慌ただしい様子。
（注3）説……言う。

(1) ある生徒が、【漢詩】の内容について次のようにまとめました。［A］、［B］に入る適切な内容を、［A］は**十字以内**で、［B］は**十五字以内**で、それぞれ書きなさい。

洛陽の町中に、秋風が吹く頃になった。
［A］を書こうとするが、さまざまな思いが重なる。
慌ただしく書いたので、［B］のではないかとまた心配になり、手紙を託す旅人が出発するとき、もう一度手紙の封を開いてしまう。

A
［　　　　　　　　　　］

B
［　　　　　　　　　　　　　　　］

(2) 行人臨（ミテ）発（スルニ）又開（ク）封（ヲ）に、書き下し文を参考にして、**返り点**をつけなさい。

［行　人　臨（ミテ）　発（スルニ）　又　開（ク）　封（ヲ）］

(3) 【漢詩】にこめられた思いとして最も適切なものを、次の1〜4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　惜別　　2　博愛　　3　悔恨　　4　望郷

［　］

【青森県】

Step 2・3

二　次の李白（りはく）の漢詩を読んで、1〜5の問いに答えなさい。

【Ⅰ】　＊汪倫（おうりん）に贈る

李白舟に乗つて＊将（まさ）に行かんと欲す
忽（たちま）ち聞く岸上踏歌＊の声
桃花＊潭（たん）水深さ千尺
及ばず汪倫我を送るの情に

李白乗舟将欲行
忽チ聞ク岸上踏歌ノ声
桃花潭水深サ千尺
不レ及バ汪倫送ルノレ我ヲ情ニ

【注】
＊汪倫……李白の友人の名前
＊将に……今にも
＊踏歌……足で地を踏んで調子を取って歌うこと　またその歌
＊桃花潭……川の名前　潭は水が深くよどむところ

【Ⅱ】　黄鶴楼（くわうかくろう）*にて孟浩然（まうかうねん）の広陵に之（ゆ）くを送る

故人西のかた黄鶴楼を辞し
煙花三月揚州（やうしう）*に下る
孤帆の遠影碧空（へきくう）に尽き
惟（た）*だ見る長江の天際*に流るるを

故　人　西ノカタ　辞二シ　黄　鶴　楼一ヲ
煙　花　三　月　下二ル　揚　州一ニ
孤　帆ノ　遠　影　碧　空ニ　尽キ
惟ダ　見ル　長　江ノ　天　際ニ　流ルルヲ

【注】
＊黄鶴楼……長江のほとりにあった高い建物
＊揚州……長江下流の都市　広陵のこと
＊惟……「唯」と表記される場合もある
＊天際……空の果て

Step 2

1　【Ⅰ】【Ⅱ】に共通する漢詩の形式を、**漢字四字**で書きなさい。

Step 2

2 【Ⅰ】の李白乗舟将欲行に、返り点と送り仮名を補うとき、書き下し文を参考にして、解答欄の□に返り点を、（　）に送り仮名を書きなさい。

李　白　乗□（　）舟（　）将ニ　欲□（　）行（　）

Step 2

3 【Ⅱ】の詩の中で「別れを告げる」の意味で用いられている**漢字一字**を、抜き書きしなさい。

□

Step 3

4 【Ⅰ】【Ⅱ】の書き下し文に共通して見られる表現技法として適するものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア　対句法　　イ　反復法　　ウ　倒置法　　エ　体言止め

□

Step 3

5　次の表は【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩を比較して、まとめたものである。後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

項目＼題	汪倫に贈る	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
立場	李白が〔　a　〕立場	李白が〔　b　〕立場
情景	舟が出ようとすると、岸辺から急に、汪倫の声かけで集まった村人たちの歌声が聞こえてくる	花咲き霞（かすみ）たなびく三月、友の乗った一艘（そう）の舟の帆が〔　c　〕、青空の中に消えていく
感動の中心	桃花潭の水深に比べて〔　d　〕に対する感謝の思い	長江の広がりと、それによって際立つ言いようのない孤独感

(1)　【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩は、ともに「送別」をテーマによんだものである。作者の立場の違いが明確になるように、表の〔　a　〕〔　b　〕に適する語句を、それぞれ**五字以内**で書きなさい。

a

b

(2) 表の〔 c 〕に適する内容を、**十字以内**で書きなさい。

(3) 表の〔 d 〕に適する内容を、作者が何に感動したかが分かるように、**十五字以内**で書きなさい。

【秋田県】

〈Note〉

第二十六講　漢文の読解②

Step 1

一

解答

(1) A、家族にあてた手紙(または、故郷にあてた手紙)(8字)　B、思いを言い尽くせていない(または、言い残した思いがある)(12字、または10字)(それぞれ同意可)　(2) 行　人　臨(ミテ)レ　発(スルニ)　又　開(ク)レ　封(ヲ)　(3) 4

解説

(1) A、「家書」の意味が入る。ここでの「書」とは手紙を指す。B、「説きて尽くさざる」ということを心配している。

(2) 一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

(3) 「家書を作らん」と欲し、その思いを言い尽くしたいという気持ちを表している。

Step 2・3

二

解答

1、七言絶句　2、李　白　乗(ツテ)レ　舟(ニ)　将(ニ)　欲(ス)レ　行(カント)　3、辞　4、ウ　5、(1) a、見送られる　b、見送る(それぞれ同意可)

(2) 次第に遠ざかり(同意可)　(3) さらに深い汪倫の心づかい(12字)(同意可)

解説

1、一句が七文字で、四句からなる漢詩である。

2、一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

3、「辞する」は「別れる」という意味で用いられている。
4、Ⅰでは「岸上踏歌の声」と「忽ち聞く」、「汪倫我を送るの情に」と「及ばず」の順番が入れかわっている。Ⅱでは「長江の天際に流るるを」と「惟だ見る」の順番が入れかわっている。
5、(1) Ⅰは、李白が舟に乗って行こうとしているときによんだ詩であり、Ⅱは、孟浩然が広陵へ行くときに李白がよんだ詩である。
(2)「孤帆の遠影」が「碧空に尽き」とある。舟の姿が遠くに見えるようになり、やがて青空に消えて見えなくなる様子が表されている。(3) 桃花潭の深さが、汪倫の自分を送る気持ちに及ばないということであり、汪倫の気持ちがそれだけ深いことを言ったものである。

口語訳

Ⅰ、李白は舟に乗って今にも行こうとしている。突然、岸から足で調子を取って歌う声が聞こえる。桃花潭の深さは千尺もあるが、汪倫が私を送る気持ちの深さには及ばない。
Ⅱ、旧友が西の方角の黄鶴楼に別れを告げ、花が煙るように咲く三月に広陵へ下っていく。一そうの舟の帆の遠影が青空に消えていき、ただ長江が空の果てに流れるのを見るだけである。